

高齢者施設計画における身体・心理両面からの介護負担評価 — 介護負担推計ツールの提案 —

茂木正史*

Evaluation of Care Workers' Physical and Psychological Burdens in the Planning of Nursing Homes

- Proposal of a Care Workers' Burden Evaluation Program -

Masafumi Moteki

研究の目的

高齢化が進む中、高齢者施設においては、入居基準の改正により重度者優先となったことと現入居者の高齢化に伴って、各施設の入居者の介護度が総じて重度化している。加えて、少人数の介護担当制と介護の人手不足から介護者の目が行き届かない場面や、介護者の負担が問題となっており、空間計画でも入居者のケアのしやすさに加え、介護者の負担軽減のための検討が必要となってきた。そこで、介護者の心理・身体両面の負担の要因と平面計画の関係を明らかにし、平面計画より、介護活動の身体・心理両面の負担が定量的に評価できるツールを開発した。

研究の概要

介護活動の中で、歩行によって生ずる疲労が介護者の身体的負担となり、空間の死角によって要介護者の状況を把握できない不安が心理的負担になると考え、空間計画情報からこれらを定量的に評価する方法を検討した。

施設の空間計画と運用のされ方から、従来型^{*1}とユニット型^{*2}の2つのタイプの介護施設を取り上げ、前者は2施設で2名、後者は5施設で7名の介護者が行った実際の介護行動の観察調査を行った。また、介護場所間の移動回数に関する調査データより、計画時等の平面プランから介護者の歩行距離を算定できるプログラムを作成した。同時に92名の介護者に対して、施設配置と介護内容から、担当する要介護者の様子が把握できないことで心理的な負担を感じる場面についてアンケート調査を行い、その結果から平面計画と心理負担の関係（相関）を求め、同じく平面プランから心理負担を算定するプログラムを作成した。

*1：多数の居室と一つの共用部分からなるプランで、全体を複数の介護者で介護する

*2：小規模のグループごとに共通スペースと個室からなるプランで、グループごとに特定の介護者が担当する

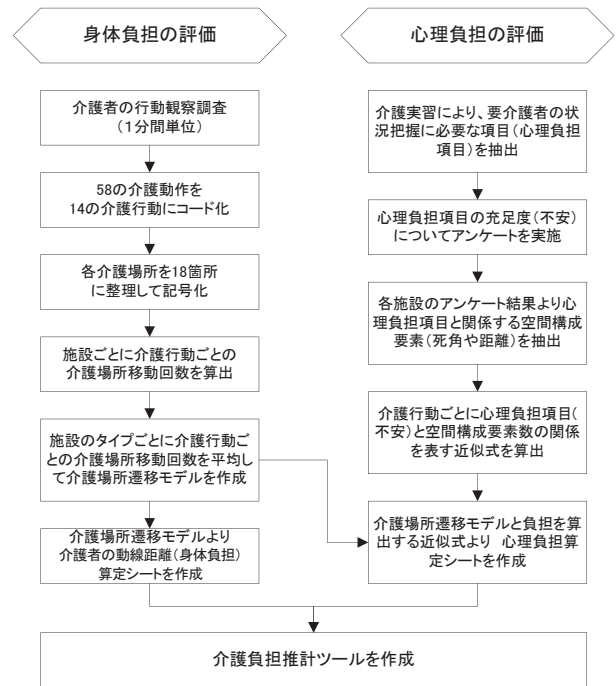


図-1 開発フロー

研究の成果

介護負担推計ツールのプロトタイプを作成した。その特徴を以下に示す。

- i. 汎用表計算ソフトを使用しており、検討対象の建物図面より必要な入力情報を読みとって介護負担を算定する操作は初心者にも容易である
- ii. 検討対象施設における介護者の心理・身体両面の負担を心理負担、身体負担の2軸グラフに表し、介護負担を他施設のデータと比較しながら総合的（心理+身体）に評価できる
- iii. より介護負担の少ない施設計画に貢献できるとともに、複数のプランの中から選択する場合に、コストやデザインなどの観点に加え、介護負担の観点からの検討が可能である

*技術研究所